

発行日 2007年3月16日発行

福島高専図書館報 ビブリア 102号

# ビブリア

目次:

43年ぶりに『光子の裁判』を読んで	2
本の紹介(1)	3
卒業論文の紹介	4
暗闇鏡	6
図書館から	9
本の紹介(2)	10
国会図書館へ行こう	12
数字でみる図書館	13
アーカイブについて	14

編集後記

*If I Knew It Would Be the Last Time*

*Tomorrow is not promised to anyone, Young or old alike,  
And today may be the last chance*

*You get to hold your loved one tight. So if you're waiting for tomorrow,  
Why not do it today?*

*For if tomorrow never comes, You'll surely regret one day,  
That you didn't take that extra time*

*For a smile, a hug, or a kiss  
And you were too busy to grant someone,*

*What turned out to be their one last wish.*

*So hold your loved ones close today, And whisper in their ear,*

*That you love them very much and You'll always hold them dear.*



## 43年ぶりに『光子の裁判』を読んで

根本信行（一般教科 物理）

大学受験を控えた高校2年生の私は、いつも勉強に利用していた市立図書館で、この随筆に出会いました。そしてこの出会いが、どの大学にしようか決めかねていた私に、筆者である朝永さんのいる大学の受験を決断させたのでした。入学した年の秋に朝永さんはノーベル物理学賞を受賞し、そのために物理科学生対象の講義ができなくなりました。従って私たちは朝永さんの最後の教え子と自負しています。ノーベル賞をいただくほどの朝永振一郎先生を、先生と同僚たちや私たちは、朝永さんと呼んでいました。湯川さんのいる京都大学も私たちの東京教育大学も、物理学科では先生方をそのように呼んでいました。原子物理学の創始者として有名なボーア先生の優しい雰囲気、名前の呼び方も含めて日本の物理学科に伝えられていたのです。

随筆『光子の裁判』は、犯人である光子が「二つの入り口から同時に入りました」と証言し、それを法廷の人たちが検証する話です。それは波動性と粒子性を併せ持つ光の二重性、すなわち量子力学の基礎をおもしろく説くものです。物理学の知識に乏しい高校生の私は、そこに何か新鮮な匂いを感じたのです。この随筆は、その後、『量子力学的世界像』（弘文堂）や『量子力学と私』（岩波書店）という本にまとめられました。

明治39年3月生まれの朝永さんは、ご存命ならば今年で100歳となります。そして、私に本を読む楽しさを教えてくれた父も、同じ明治39年3月生まれでした。優しくもあり怖い存在でしたが、高校生の私を大人扱いしてくれましたので、私は自分のことはすべて自分で決めることができました。父が私の進路決定を尊重してくれたので、朝永さんの珠玉のような講義を受講できました。朝永さんには、わかり易いけれども高レベルな講義をしていただいた

だけで、私自身は、厳しい面には触れることはありませんでしたが、「学会の時に、朝永先生は大物学者の間違いを厳しく指摘していましたよ」と、聞いたこともありました。学問に真摯に取り組む朝永さんから優しく学問を授けられた私たちは、何と幸福だったことでしょうか。

先日図書係の方から連絡があり、整理されることになっていた朝永さんの著作集全12巻をいただきました。その中の第8巻の冒頭に『光子の裁判』が載っていました。懐かしくそして有り難く、先生と父に会えたような喜びを感じつつ読ませていただきました。

朝永振一郎（1906～1979）

32年、理化学研究所の仁科芳雄研究室に入り、37～39年ドイツのハイゼンベルク教授のもとで原子核理論を研究。42年に超多時間理論を、48年、朝永=シュウィンガー理論を発表し、同年磁電管の発振機構と立体回路の理論的研究で学士院賞、52年に文化勲章を受ける。62年、東京教育大学長、65年ノーベル物理学賞を受賞した。学士院会員。日本学術会議会長。仁科記念財団理事長。原水爆の禁止や原子力の平和利用に熱意を示し活躍した。



本の命について

今年度から図書館では長期間利用されなかった書籍の処分を開始しました。このような形でスポットを当てていただけたのは、本当に幸運なことでした。

何気なく取る本との出会いは、ドラマチックなもの。そのような本との出会いを提供できれば、と考えているのが図書館です。

## それはどれくらい ヤバイのか？ リスクのモノサシ

先日、携帯電話基地局建設について住民説明会があったので参加してみた。が説明役は電話会社の人たち、地区住民は40名だった。説明の後に、いくつか質問が出された。いくつかは聞き直したが、終わりかなと思ったころ50代の女性があな話を切り出した。科学を超えて心理の話、「電波の安全性が確認されていないので建設には反対だ」、「基地局があると土地の評価額が下がる」というものだった。

電波だけでなく100%安全だと言い切れるものは世の中に存在しない。携帯電話の電波による深刻な健康被害がないとは思わないが、そんなに心配する事なのか？と不思議だった。電波の安全性や危険性を証明するための調査も研究も十分でないのかもしれない。しかし、年間6000人も命を奪う機械が走り回っている事実をどうとらえるのかと電波の危険性を心配する人に聞いたかった。自動車は止まるけれど電波は止まらないと言うのかもしれない。しかし、車と携帯の危険性を比べれば、どっちが危ないかなんて考えないんじゃないかと思うのだ。

私たちは安全な社会で安心して生活できることを望んでいるが、実は様々な「リスク」の中で日々の生活を送っている。こうしたリスクについて、メディアは敏感で被害だけでなく被害予測についての情報（リスク情報）も伝える。それが使命だと言うのだが、事実としての被害よりもリスク情報が人々により大きな不安を与え、社会全体に対して大きな影響を与えてしまう事が多い。10年前、精子数の減少など専ら生殖機能の異常にかかわる懸念が注目され「環境ホルモン」の危険性が提起された。1998年、当時の環境庁が「内分泌かく乱作用の可能性を優先的に調査すべき化学物質」リストを発表した。その中にビスフェノールAがあった。ポリカーボネイト製の食器、カップ麺の発泡スチロール容器から溶け出しているという話が発端となり、それらの製品の廃棄や不買行動が起きた。健康被害はあったのだろうか？ 詳細な研究の結果、環境省の公式見解は「環境ホルモン、内分泌かく乱物質とされた物質には、魚介類に対して毒性が確認されたが、現状の環境中に存在する濃度では、ほ乳類に対して明確な影響はない」というものになっている。

「危険性がある」という言葉にTVや新聞とい

うマスコミがよくわからないけれど危ないと書き、そのリスク情報が生み出す不安や混乱に振り回されたという事実が残った。危ないと騒いでも放出された毒物の量は減らないのだ。詳細な結果を待てば適切に対処することができたのではないかという教訓が残った。過去から学ぶしかない私たちとしては、直面するリスクだけに目を奪われて場当たりのリスク回避行動を取ると、生活の質を必要以上に低下させたり、別のリスクを高めたりすることになってしまうことを忘れてはない。中谷内一也氏（帝塚山大学教授・社会心理学）は「リスクのモノサシ」の採用を提唱している。リスク情報に不安を感じることは悪いことではない。問題なのは、「リスクの程度に応じた不安を感じた個人の対応が社会の政策を引き出せる仕組みがないことだ」という。リスクが「あるか、ないか（1か0）」ではなく、リスクの「程度」を評価できるわかりやすい「モノサシ」を設定、提示が求められていると述べている。「リスクのモノサシ」を作成し利用すれば、問題となっている現象が持つリスクの深刻度を冷静に判断できるようになる。これを積み上げていけば社会全体がリスクを定量的に扱えるようになる言うのだ。目前のリスクに思考停止にならないように冷静であることと、リスクを管理する側の人々の「信頼」も重要だと指摘している。「信頼」が何によって決まるのかについて、社会心理学に主要価値類似性モデルを提唱している。



### リスクのモノサシ

安全・安心生活はありうるか

中谷内一也 著 日本放送出版協会  
(NHKブックス) ISBN:9784140910634



## 卒業論文の紹介

本科の5年生は卒業研究に取り組んでいます。設計、実験、調査だけではなく、その背景、今回の取り組みの位置付けや評価などを含めて5年生が指導担当の先生の指導を受けながら、卒業論文にまとめています。5年生が書き上げた論文は、学科ごとに製本して図書館で保管しています。しかし、卒論を読む在学生が多く、製本された論文集の傷みが激しい状況であったため、5年ほど前から卒論の電子化を進めています。論文をPDFに変換して図書館のホームページ上で公開しています。卒論の保管や公開だけでなく、卒業研究や特別研究などのサポートができる図書館であるように努力したいと思います。

昨年11月、学生の読書傾向などを調査するアンケートが行われました。この調査は卒業研究の中で行われたものでした。図書館でもいつかはこのような調査を行いたいと考えていましたので、著者の鈴木里沙さんの了解をもとにその一部を紹介します。アンケート調査によって浮かび上がった福島高専生、どんな本を読み、あるいは読みたいと考えているのでしょうか。誌面の都合で一部だけしか紹介できません

### 卒業研究テーマ 「読書によるより良い情緒育成を目指して」

著者 コミュニケーション情報学科 鈴木里沙 指導 松江俊一先生

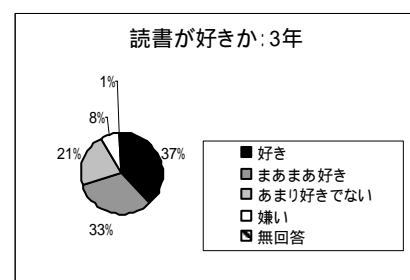
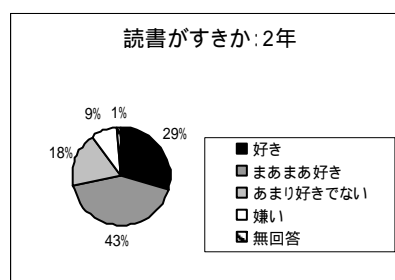
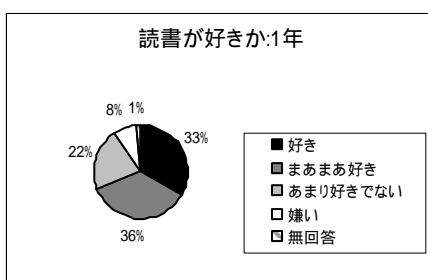
#### 第4章 アンケートによる分析 4-1 アンケートの目的・方法 から

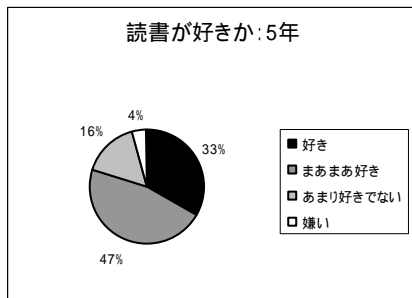
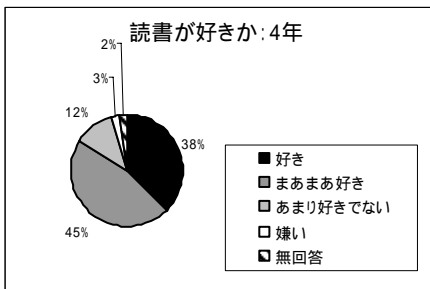
若者の読書傾向と情緒との関係を調査するため、福島高専生全学年全学科の学生を対象として、読書と情緒に関するアンケートを行った。617枚を回収し、回収率は60.5%であった。実施期間は、11月30日～12月6日までの7日間である。(土日含む)質問は、実際に行った34問のうち、21問を分析対象とした。抽出した質問は以下の通りである。

・読書は好きですか？ ・どのくらい本(雑誌・漫画以外)を読みますか？ ・一回の読書にどれくらい時間をかけていることが多いですか？ ・こういった小説をよく読んでいますか？ ・こういった実用書を読んでいますか？ ・こういった雑誌をよく読んでいますか？ ・小さい頃に読み聞かせをしてもらったことがありますか？ ・小学校の頃、朝の読書はありましたか？ 小学校の頃、読書について先生から指導がありましたか？ ・中学校の頃、朝の読書時間はありましたか？ ・中学校の頃、読書について先生から指導がありましたか？ ・あなたは漢字の多い本を読むことに抵抗感がありますか？ ・古典の知識は人生において必要だと思いますか？ ・読書することは人生において必要だと思いますか？ 中略 ・あなたは無実の罪で独房に入れられてしまい、死刑が確定してしまいました。刑の執行はちょうど3ヵ月後…。そこで一冊の本を与えられることが許されました。さて、あなたならどんな本を選びますか？

これら各質問を学年ごとに集計し、分析した。

アンケート分析結果の一部



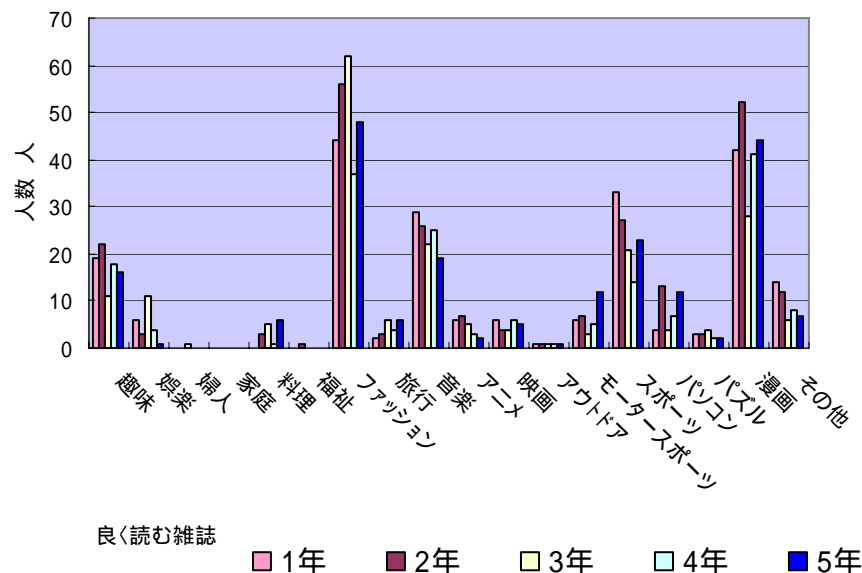
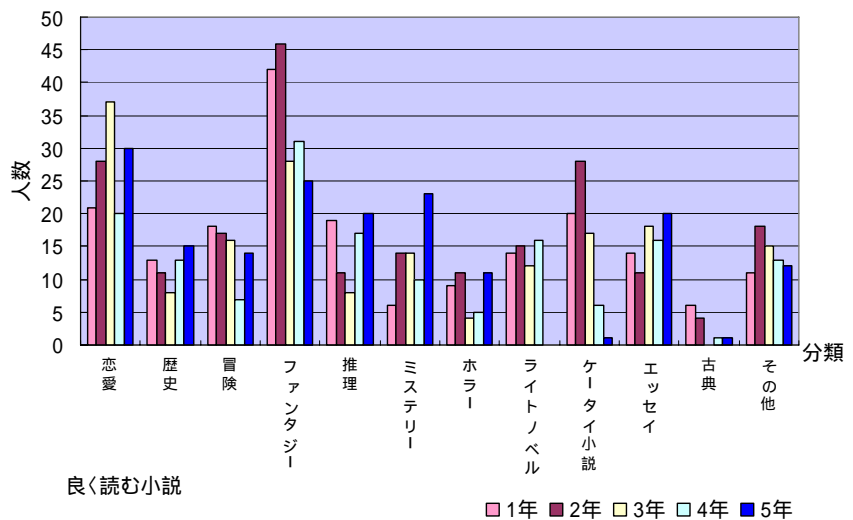


読書に関する解析は卒論の中で行われているので、興味がある人は是非、論文を読んで下さい。恋愛小説を3年生、ファンタジー小説は1,2年生が、特に2年ケータイ小説を選んでいるのが2年生以下で目立つようにも思います。雑誌では漫画とファッションが支持されています。

幼いときに本を読んでもらい、小学校では読書指導があったけれど、中学校では読書指導は行われなかったこと。高専入学後も70%位の学生は読書が好きなものだけれど、読むべき本に出会っていないような印象を受けました。

読書指導ということではなく本の紹介の必要性を感じました。

この5つのグラフを見ると、読書をするのが好きな人、まあまあ好きな人はどの学年も約7割以上いることがわかる。4,5年生は約8割いる。このことから、読書に対する意識、イメージは悪くないことがわかる。しかし、あまり好きでない人、嫌いな人の割合が、低学年に多い。一番多いのは一年生である。このことから、低学年では読書以外の娯楽を好んでいるのではないかと考えられる。同時に、読書に対してあまり良いイメージを抱いていない人が増えてきていると考えられる。(学年は18年度)



論文では、読書、情緒、言葉使いや挨拶、躰へとアンケート調査から読み取れる傾向について分析が行われている。アンケート調査は校内でも良く行われているが、読書に関してこのような調査は行われていなかった。回収率は61.7%であった。設問、集計、解析、コメントも著者によって行われている。時間的な制約などで解析の踏み込みが不足気味だと感じることもあるが、学生による調査は、意気込みと苦悩、苦心が読み取れました。初の試み、貴重なデータをありがとうございました。

## 暗闇鏡

佐藤 実

ある年の冬の夜、僕は買い物を終えて家路に  
着いていた。雪がかなり積もっているらしく、  
歩くたびにギュッギュッと雪を踏み固める音が  
する。

雪は止み、空は雲ひとつない星空だが残念な  
事に月が出ていない。僕の家は山奥なので外灯  
なんか全くない。星明かりだけでは暗すぎる。  
暗すぎて一人で歩いていると不安な気持ちに  
なってくる。

ああ、明かりさえあればこんな気持ちにはな  
らないのに。今度からランプでも持ち歩くべき  
だろうか。

フッと白い溜め息をつきつつ、どこかに明か  
りはないだろうかと思っていると、雪の上で何  
かが光っている。何だろうと思って近寄ってみ  
ると、それは柄の付いた鏡だった。どうやら鏡  
面から光が出ているようだ。鏡面を下にして伏  
せてあるにも関わらず光が漏れている。

機械や電気でも仕込んであるのだろうかと思  
問に思いながら僕はその鏡をひっくり返し、上  
から覗き込んだ。そこには自分の顔が映ってい  
た。星明かりしかないはずなのに、鏡の中の僕  
の顔はまるで昼間のようにはっきりしている。

よく見ると背景には青空が映っている。ハッ  
となり空を見上げると、黒い夜空にポツンと小  
さな青空があった。その小さな青空から昼間の  
光が伸び、僕の持っている鏡の中へと吸い込ま  
れている。いや、逆だ。鏡から昼間の光が出て  
空を照らしているのだ。

そうか、この鏡は昼の光を放つのか。何とも  
便利で面白い物を拾ったな。

僕はその鏡で雪道を照らしながら家へと帰っ  
た。光を浴びた雪はキラキラと美しく輝いてい  
た。あちこちに生えている針葉樹も照らした。  
雪の積もった木も、なかなか味わいがあるよう  
な気がした。

僕が家に帰ってまず初めにした事は、ランプ  
と暖炉に火を点ける事だった。僕の家にはまだ  
電気が通っていない。また、一人暮らしなので  
誰も明かりを点けて待っていてくれない。

さっき拾った不思議な鏡。これを見ていれば  
少しは寂しさも紛らわせられるかなと思い、再  
び鏡を覗いてみた。しかし、鏡は真っ黒にな  
り、何も映さなかった。

あれ？壊れたかな？そう思ってよく見ると、  
わずかにチカチカと光る物がある。振り向くと  
鏡の形に沿った影が壁に映っていた。

「ああ。」

思わず声を出して納得してしまった。この鏡  
は暗い所だと光を出し、明るい所だと暗闇を出  
すのだ。さっき真っ黒な鏡にわずかに映った光  
は、ランプの光が届かなかった暗闇だったのだ  
らう。

僕はランプを消し、その鏡で一晩中遊んだ。  
家中のあちこちに光を照らしてみた。お陰でソ  
ファの下に落ちていた小銭を発見できた。星空  
へ鏡を向けてみた。青空の中に黒い丸ポチがあ  
る。黒い星だ。中でも面白かったのは暖炉を照  
らした事だ。火が見えなくなり、薪が自然と灰  
になっていくように見えた。

ふと、ある考えが浮かんだ。この鏡で合わせ  
鏡をしたらどうなるのだろうか？合わせ鏡と  
は、向かい合わせにした鏡に向かい合った鏡が  
映り、その鏡にまた向かい合った鏡が映り……  
と永遠に続く鏡の事だ。僕がしたいのはそう  
じゃない。光を闇に、闇を光にして映す鏡に鏡  
を向ければ、一体何を映すのだろうか？

早速洗面所の鏡で試す事にした。僕はドキド  
キしていた。目を閉じ、深い溜め息をついて鏡を  
合わせる。そしてゆっくりと目を開けた。鏡の  
中には無数の鏡が映り、光を放つ鏡と暗闇を放  
つ鏡が交互に並んでいるだけだった。ちょっと  
拍子抜けだった。何か、もっとすごい事が起き  
ると期待していたのに……。僕は鏡を机の上に  
伏せ、寝る事にした。

次の日の朝、景色は正に昨日の夜見た物ばかり  
だった。外では雪がキラキラ輝き、太陽も高く  
昇っている。

僕は試しにとばかりに太陽を鏡に映した。鏡か  
ら黒い影が太陽へ一直線に伸びた。だが太陽自  
身には変化はなかった。太陽を覆い尽くすに  
は、この鏡では小さ過ぎたのだった。

それから一年、僕の生活はほんの少しだけ楽  
になった。例の鏡のお陰だ。ランプなしで夜道  
を歩けるし、電灯なしでも夜を過ごせる。燃料





もいらぬ。何よりも鏡を覗いていて楽しい。様々な物が反転して見えるので見ていて飽きない。

そう、この鏡を拾ってちょうど一年経った頃だろうか。僕は去年と同じように買い出しに出た。夜だったがこの鏡のお陰で夜道も平気だ。夜道を照らしているのは星と月とこの鏡と、もう一つ別の光だけだった。

その光の正体は何なのか分からなかったが、道の上で何かが光っている。買い物に行く時には何もなかったはずなのに。僕はそれが何の光か確かめるために光へと近付いた。柄の付いた鏡が裏返しに伏せてあった。僕が今持っている

去年拾った 鏡と全く同じだ。

こんな事があるのだろうかと思いつつ、落ちていた鏡を覗き込んだがやはり全く同じ鏡のようだ。暗闇を光に変えている。

その時、ふとしたはずみで鏡同士を向き合わせてしまった。合わせ鏡だ。

すると二つの鏡は強く光ったり暗くなったりを高速で繰り返し始めた。見ていて目がおかしくなりそう。やがて二つの鏡は、片方は一際強く輝き、もう片方は真っ暗になり、パリンと音を立てて両方とも砕け散った。それを見ていた僕は、急に意識を失った。

ハッと目が覚めて、僕は雪の上で寝ていた事に気付いた。何て寒さだろう。体がブルブルと震えた。しかも見渡す限りの青空。どうやら僕は雪の上で一晩過ごしたらしい。よく凍死しなかったものだ。照り返す雪の光が眩しい。しかしおかしい。何故太陽が出ていないのだろうか？そして更に言えば、何故僕の影がないのだろうか。

それにしても、せっかくの鏡を割ってしまったのは残念だ。側には二つの柄が落ちているだけで、鏡の欠片は一つも落ちていなかった。

昼間だと言うのに鳥のさえずりも聞こえない。僕は不気味なくらい静かなこの空間が恐ろしくなり、急ぎ足で帰った。何より、鼻がツンとなるくらい寒かった。

玄関の戸を開け、僕は驚いた。家の中から光が溢れている。特に暖炉の中は火をたいてもいないのに明るい。僕は自分の身に何が起きたのかだんだん分かってきた。試しに暖炉に火を点けると、暖炉は真っ暗になった。

僕は確信した。原因はあの合わせ鏡だ。その強い光と影を見たためか、それとも割れた鏡が僕の両目に入り込んだのかは知らないが、とにかく僕の目はあの鏡のように光と影を逆転して映すようになったのだ。



とにかく今日はもう寝よう。疲れたし、それに今は明るいように見えるけど夜なのだから。家中が眩しく輝くので、僕はランプを点けた。辺りに薄い暗闇が広がる。これで眠れると思ったのもつかの間、目を閉じるとまぶたから光が出て眠れない。仕様がなくてランプをベッドの端に括り付け、ランプに顔を近づけて寝た。これならまぶたの裏にまで暗闇が行き渡る。それにしても、寝返りを打ったら火事になるんじゃないだろうか？そうしたら辺り一面真っ暗になるのだろうか？そんな事を考えながら眠りに就いた。

それから一年間、僕は電気の通うアパートに暮らした。やはり寝るたびにベッドにランプを括っていつか火事になると思ったので、アパートへ引っ越して電気を点けばなしにして寝る事にしたのだ。この電球と言う物は素晴らしい物だ。ランプなんかよりもずっと明るい。目をつぶっても光が届く。電気代がちょっと高いと感じるけれど。

僕は風呂と寝る時以外は常にサングラスを着用するようになった。これを掛ければ昼夜関係なく周りが明るく見える。裸眼ではとてもまともに歩けない。光り輝くネオンや電灯が暗闇となつて襲ってくるので、夜もサングラスは外せない。風呂には電気を消して入る。

そして今、僕は去年住んでいた家へと帰っている最中だ。何故かと言えば、例の鏡を探すためだ。あの鏡は去年も一昨年と同じ日の夜に拾った物。だったら今夜この道を通れば拾えるはずだ。それがあれば僕の目が元に戻るかも知れない。……確信はないが。もしかしたら鏡は落ちてないかも知れないし、落ちていても僕の目は元に戻らないかも知れない。でも、探さずにはいられなかった。

辺りは照り返す雪と雲一つない青空。青空の中には黒い星々と黒い月。今は明るくて寒い夜なのだ。やがて、雪の上に暗い影を見つけた。サングラスを外して近づいてみると、やはりそれはあの鏡だった。毎度のように裏返しに伏せてある。僕は興奮し、急いで鏡を覗きこんだ。目

が治るかも知れないと言う思いが強かったためだ。

その瞬間、強い光と影が高速で点滅した。しまった！今の僕の目はこの鏡と同じ性質になっている！そんな状態で覗き込んだから合わせ鏡になってしまったんだ！

点滅はどんどん速くなっていく。意識はどんどん薄くなっていく。やがてパリンと言う音がして、僕は意識を失った。

目を開けたが真っ暗だった。夜だからじゃない。星も月もないし、ランプを点けても明かりが見えない。

合わせ鏡で鏡が割れたのだ。と言う事は僕の目も……。まぶた越しに触ってみたが、眼球はあるようだ。だが、光を失った。何も見えない……。僕の暮らしは更に困難になった。目が見えないのがこんなにも辛くて大変だとは思わなかった。杖と手探りと道行く親切な人が頼りだ。何より辛いのは、僕の好きな星が見れない事だ。夜空に輝く星も、青空の黒い星も……。

いつしか一年が経った。もう僕は一生目が見えないのだろうか？そう言えば今日は例の鏡が落ちている日だ。だが、僕に鏡を探す気はなかった。どうやって探す？雪の上を手探りで？見つけてどうする？何も映さない瞳で鏡を見るのか？僕は絶望していた。

何も見えない……はずだった。本当に小さな小さな光が見える。手探りで近寄ってみると、その光は窓の外から見えるようだ。もしかして！

僕はアパートを駆け出した。壁や人に何度もぶつかりながら。とにかく急いでいた。何も見えないくせに。焦る気持ちを抑えつつ、街を抜けて光の見える方へ向かった。不思議と光のある場所が分かる。小さな光が見えるのだ。光はわずかだが大きくなってきた。そして今、足元に光が見える。これは間違いなく例の鏡だろう。何故盲目の僕にこの光が見えるのだろうか？恐らく、この鏡は光と影を逆転して映す物ではなかったのだろう。きっとこれは見る人によって違う見え方をするはずだ。この鏡は、見える物が見えなくなって、見えない物が見えるようになる鏡だったのだ。だから目の見えない僕にこの光が見えるのだ。

僕は鏡を覗き込んだ。そこには一年ぶりに見る僕の顔があった。割と穏やかな表情だ。やがて、鏡の放つ光が僕の目の中へと吸い込まれていった。鏡が音もなく崩れて僕の目の中へと入っていく。残ったのは鏡の柄だけだ。僕はサッと空を見上げた。満天の星空だ！二年ぶりに見る輝く星たちだ！

目が見えるようになった僕は、嬉しさのあまりアパートの住人全員にごちそうを振舞った。皆、初めは訳が分からないと言う感じだったが、やがて皆で歌ったり踊ったりの楽しいパーティとなった。

さて、僕は相変わらず毎年鏡を拾う。何故僕がそんな不思議な鏡を毎年拾うのか理由は未だに分からない。でも、せっかくなので有効に利用させてもらう事にした。僕は目の見えない人 特に子供 にこの鏡をプレゼントした。たちまち目が見えるようになり、その人もその人の家族や友人も大喜びするのだった。そして近所中がパーティになり、僕もそれに参加するのだった。

子供たちは僕に懐き、僕もそんな子供たちが好きだった。だから僕は鏡の他に、たくさんのおもちゃを持ってきてパーティに参加するようになった。目の見える子にも見えない子にもおもちゃをプレゼントした。すると子供たちは大喜びでありがとうと言うので、僕も嬉しくなって、また来年も来ようと思うのだった。

やがて、どこの家でも毎年 僕が鏡を拾う日にパーティを開くようになった。僕はあっちこっちのパーティに呼ばれて大忙しだ。移動にはソリをトナカイに引かせるのだが、夜道は暗くて危ない。そこで例の鏡を加工してトナカイの鼻に付けてみると、暗い夜道が明るくなり大変便利だった。パーティに参加しきれず、既に子供が眠ってしまった家には、子供を起こさないように煙突から入って枕元にプレゼントを置いておく事にした。煙突の中でも例の鏡が役に立つ。

ところで、現代の子供たちへ忠告。もし僕より先にこの鏡を拾い、なおかつ二つ手に入れたとしても合わせ鏡をしてはいけないよ。何でも反転して見えるから楽しいなんてとんでもない。光が影になっちゃうからテレビも映画もパソコンも見れなくなっちゃうよ。

終わり





## この本が人気 図書利用状況

登録番号	書名(平成18年度 1月末まで)
04-236	環境計量士試験「濃度・共通」精選問題集 なるほどなっとく!
05-569	環境計量士試験濃度・共通徹底研究 なるほどナットク!
079851	環境計量士への近道 上
05-496	バイオ試薬調製ポケットマニュアル 欲しい溶液・試薬がすぐつくれるデータと基本
98-460	アミノ酸とタンパク質のはなし
043456	リニアICによるオペアンプの基本と応用
079449	ダ・ヴィンチ・コード 上
078736	電気泳動なるほどQ&A 今さら聞けない基礎知識+原理を学んでトラブル解決!
00-176	図解NC工作機械の入門
064234	OPアンプ回路の設計 再現性を重視した設計の基礎から応用まで
97-382	高分子事典

今年度と去年の借出数が多かった図書です。昨年度はブックハンティングで購入した図書が上位を占めました。今年度はレポートよりも資格取得、環境計量士が注目中のようです。上位独占でした。

登録番号	書名(平成17年度)
078787	ZOO
04-257	ダーリンは外国人 2
04-267	死ぬかと思った [1]
04-293	ヒロシです。
078790	Goth (ゴス) リストカット事件
04-121	TOEICテスト対策よくわかる英文法 英語のしくみは、こんなにカンタン!
04-347	頭がいい人、悪い人の話し方 PHP新書
077540	蛇にピアス
078779	天使の梯子
073673	ラボマニュアルPCR 研究と臨床診断への応用
073671	ラボマニュアル遺伝子工学 第3版

これも 暗号？

工学分野は機械と電気、自然科学は物質、産業はコミ情と利用する分野が異なります。でも、なんだか建設が・・・ちょっと利用割合が低いように見えます。必要な本が図書館にある。当たり前前の図書館であり続けたいものです。リクエストボックスなどを利用して必要な本の情報をお寄せください。

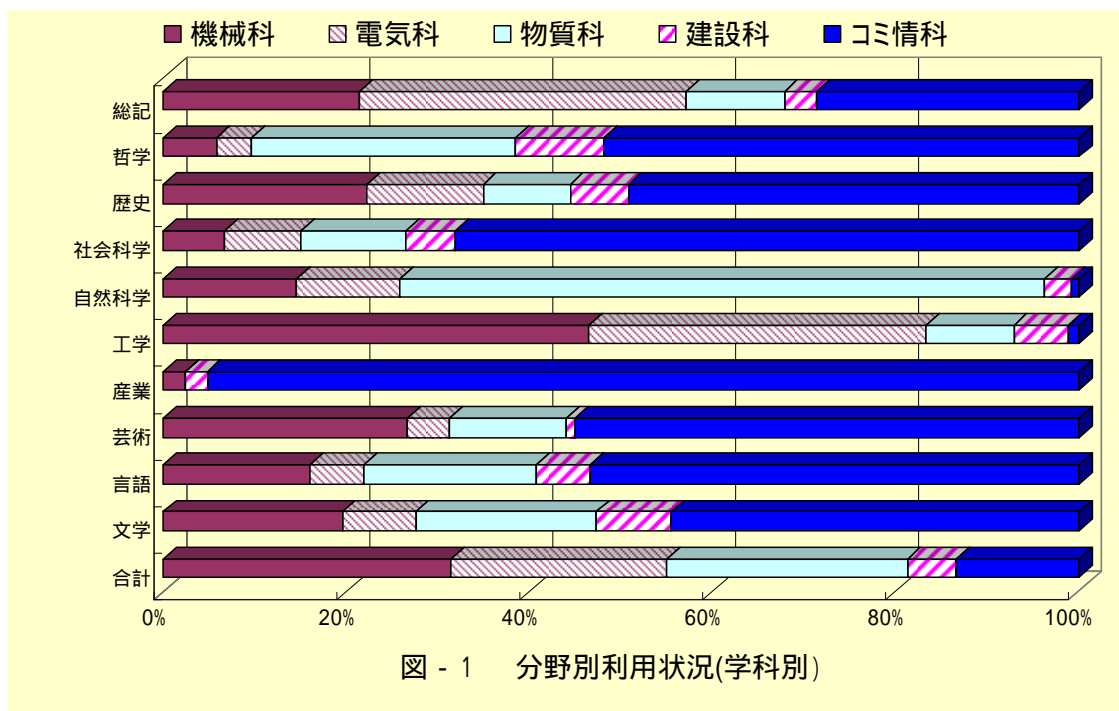


図 - 1 分野別利用状況(学科別)

## 環境リスク学 不安の海の羅針盤

リスクの定量化について尺度が必要だという提案に対して、その危なさを正確に評価する第一線の研究者による著書だ。環境問題は、「事実に基づいた数字（統計）」を基に話す、「現場（の人と物）」に関する知識からコメントする（3）わかりやすいように形容詞を使って話されることが多い。一番流通しているのは「形容詞」を使って騙られる環境問題である。いわゆる環境の本には、優しい、美しい、恐ろしい、危機などの形容詞が好んで使われているだけでなく、事態と関係がない数値の付け加え、極端な事例の一般化、日常感覚の拡大解釈などの誤解を誘発するように修飾語が使われ、恐ろしい環境危機からかけがえのない美しい地球を守るため、地球に優しくなどの美しいことばが使われています。

この恐ろしい環境危機からかけがえのない美しい地球を守るために地球に優しくと訴えることは正義ですが、修飾語は無責任なものですから、科学的な正確さとは無縁なものになってしまいます。

しかし、「美しい国」と言っただけで美しい国ができる訳はありませんから、実質的な結果として追い求めるためには、言葉やイメージをより現実的な数値やその場に表すことが必要です。

本書の前半は、著者が「数字」と「現場」に立脚し環境問題に対して切り込んできた人生について語ります。著者は「地球に優しく」などとあいまいな表現は使いません。「現場」と「数字」に裏付けられたデータで常識や思い込みを次々にひっくり返していきます。後半は「数字」に基づいたリスク学の考え方が理解できるお勧めの内容です。よく使われている環境系の形容詞は本書中に見ることはありません。途中で投げ出してしまう人もいるでしょうが、環境について学びたいと思っている人、分析化学に興味や関心を持っている人、環境分野へ進路を考えている人、その資格取得を目指そうとする人たちには、読んで欲しい本だと思っています。



環境リスク学 不安の海の羅針盤 (単行本)  
中西 準子 (著)

出版社: 日本評論社 (2004)

ISBN-10: 4535584095 ISBN-13: 978-4535584099

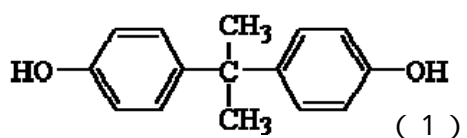


演習環境リスクを計算する (単行本)

中西 準子 (著), 益永 茂樹 (著), 松田 裕之 (著)

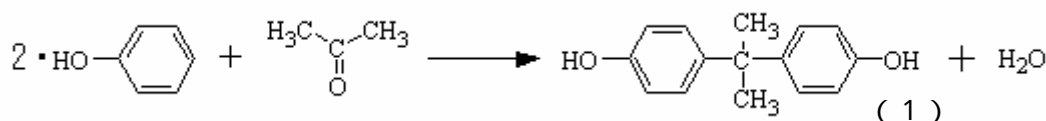
出版社: 岩波書店 (2003)

ISBN-10: 4000224379 ISBN-13: 978-4000224376



データは著者のホームページで随時更新されています。

<http://homepage3.nifty.com/junko-nakanishi/>



Q 物質(1)は酸性触媒の存在下でフェノールとアセトンとの縮合反応により生成する物質である。物質(1)とは何と呼ばれているか。

## 貧困の終焉 2025年までに世界を変える

### The End of Poverty

物言う株主と正義の味方に見えた村上氏やホリエモンこと堀江氏の儲け方には、道義的な面だけでなく法的にも問題があったと判断が下されようとしている。彼らは何のために儲けようとしたんだろうかと思ったりするが、稼ぐにはある種の勘や才能が必要だということが想像できる。額に汗して働くことが尊いことされる一方で、一瞬を見逃さずに数十億円を手にしたデイトレたちがニュースに登場する。一晩に数百万を飲んでしまった、保釈金が数千万・・・何にしても金がものをいのだと、冷たく笑って眺めるのだが、何のために儲けるんだろうか。彼らを儲けに走らせるのは何なんだろうか？

そんな中、アメリカで出版され、多くの人々から賞賛された本がある。最近の本とは言えなくなってしまったが、論理展開のわかりやすさ、豊かな生活をしている私たちへの問い掛け、どう施策に反映させるかなど、貧困をなくすための経済誠策と環境問題について書かれた本である。**地球から極度の貧困をなくす方法を**サックス教授は具体的に数字を挙げて提示している。資金を提供する国をドナーとし、22カ国がGNPの0.7%（1,240億ドル）を拠出すれば極貧層を基本的なニーズが満たせるレベルまで引き上げることができる、この額は、ドナー諸国が既に約束しているODAの範囲内で納まるというのだ。アメリカがその目標を達成するための具体的な方策として、20万ドルを超える所得に5%の追加税を課し、その分は世界の貧困をなくすためのアメリカの分担金に回すことを提言している。この本は素晴らしい。主張は極めてシンプルで大胆、しかし論証は緻密である。経済学の中に開発経済学という分野があることも知らなかった素人なので、いたく感心したのかもしれない。専門家は違う感想を持つかもしれないが、**高い専門性と職業倫理を持ち、世の中に対してポジティブで良い価値を生み出すメッセージを強く打ち出し、実際に貧しい国の経済政策の立案・実行にコミットする**という、著者のサックス教授の実践に感銘を受けた。各国の具体的なケース、すべてかうまくいったわけではなかったが、あの中にこの人がいたのかと勉強になった。環境と経済の本だけでなく「職業人としてのあり方」も示した本だと思った。競うように寄付をしたり、慈善事業に取り組む欧米の大金持ち達の行動もこういった「地位」がさせているのかなどと思ったりする。間違っても儲けて何が悪いと開き直ったりしないのだ。

### 貧困の終焉 2025年までに世界を変える

ジェフリー サックス (著), Jeffrey D. Sachs (原著),

鈴木 主税 (翻訳), 野中 邦子 (翻訳)

単行本: 534ページ

出版社: 早川書房 (2006/04)

ISBN-10: 4152087234

ISBN-13: 978-4152087232





## 国会図書館に行こう

東京は遠いじゃないか というあなたには、ごめんなさい。正確には「国立国会図書館を使おう！」ですね。オンラインサービスが充実しています。ここを使わないのはもったいない。

調査方法から資料まで、困っているあなたを助けてくれる力強いライブラリアンがいます。

情報のデジタル化にも力を入れていて、近代デジタルライブラリーでは127000冊を電子化して公開しています。これはどう調べたらいいのでしょうか？そんな疑問を解決してくれるのが、国会図書館のサービスだったりします。



<http://www.ndl.go.jp/index.html>

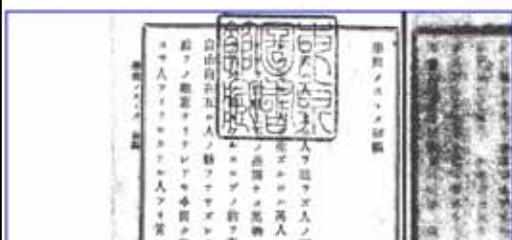
プルダウンメニューですっきりと整理されています。

資料の検索	調べ方案内	電子図書館
NDL-OPAC(蔵書検索・申込)	テーマ別調べ方案内	近代デジタルライブラリー
アジア言語OPAC	レファレンス協同データベース	貴重書画像データベース
電子ジャーナル提供タイトルリスト	統計資料レファレンス・ガイド	WARP
審判資料室の所蔵資料	参考図書紹介	デジタルアーカイブポータル
総合目録	近現代日本政治関係人物文獻目録	
デジタルアーカイブポータル	Dnavi	
書誌	Books on Japan	
	日本科学技術関係近代刊行物総覧	
	米談展示	
	日本と世界の議会・法令・官庁資料	
	アジア情報室	

あの歴史的な本も読める・・・。

近代デジタルライブラリー

<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>



レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が、全国の公共図書館、大学図書館、専門図書館等と協同で構築しているデータベースです。事業に参加する図書館が、一般の方々の情報探索に役立つような情報、図書館員のレファレンス業務に役立つような情報が日々登録されています。

<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

どうやって答えを探してくるのか？？質問も興味深いです、回答する人に出会えます。困ったを公開することで解決できる。これはネットの力の一例ですね。

## 国会図書館でWARPしよう。

Web上に出現しては消えていく情報をアーカイブしているサイトです。合併でなくなってしまったあの町、あの村のホームページも見ることができます。

ヤマトもOS/2も見つけることができるかも。

<http://warp.ndl.go.jp/>

近代日本人の肖像というサイトも用意されていて、350人の肖像を見ることができます。日本の近代史に名を残した350人とは・・・

<http://www.ndl.go.jp/portrait/index.html>

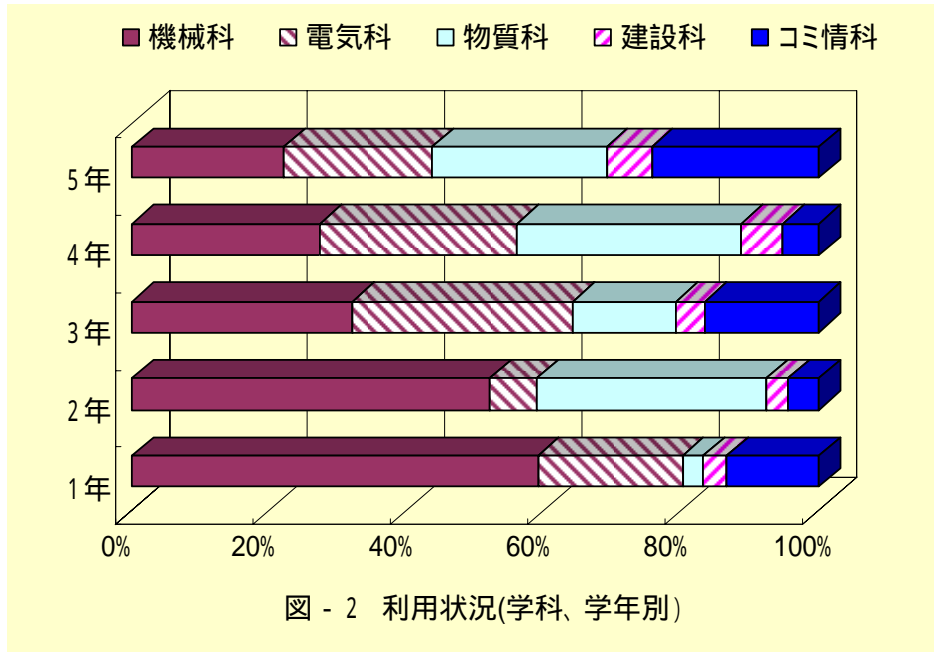


### グラフで見る図書館

図 - 2 はt図書利用者の内訳を表したグラフです。

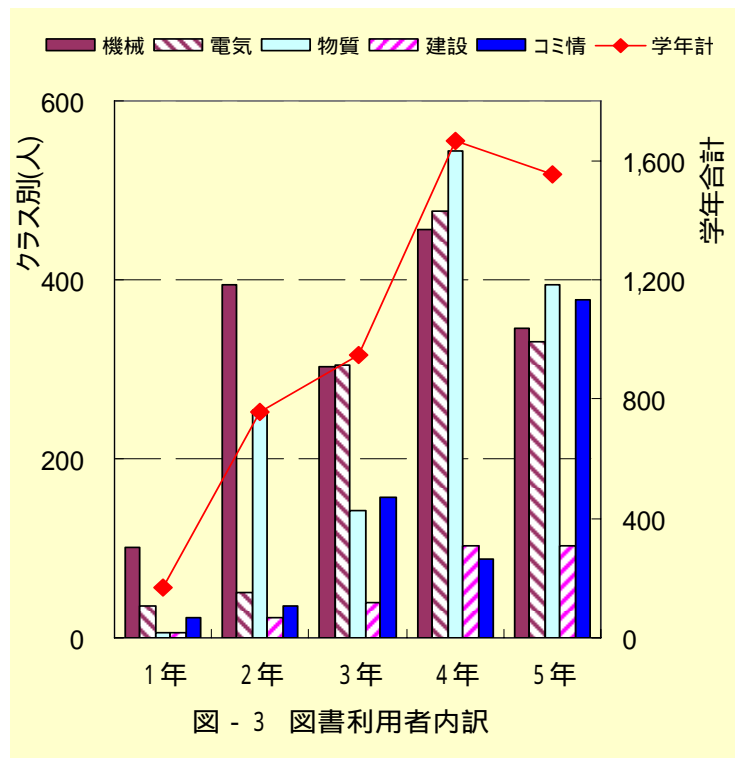
1年機械の利用数が圧倒的に多く・・・学年が上がると機械の利用率って下がる？

1年生？そんなに居るように思わない と思うあなたはさすがです。 グラフには要注意ですね。



建設のみなさん、  
図書はあまり役に立たない  
ですか？

図書館の利用者は、学年に比例する。実験・実習の予習、レポート類の作成に図書が利用されているのだからと読み取りたいところです。図書の貸出数、年間10冊を借りた。これをどう支えていくか、ネットにあふれる情報との棲み分けなど意識しながら、図書類の内容を整えたいと考えています。



〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30  
福島高専 庶務課図書係

電話 0246(46)0708 FAX 0246(46)0748  
Email: tosyo@fukushima-nct.ac.jp



**電子化の行方** 情報のデジタル化が進んでいます。図書館のデジタル化も着々と進んでいる。大学図書館の全ての蔵書をデジタル化しようという壮大な計画をGoogleなどが進めています。著作権など課題は少なくないのですが、スタンフォード、MITなどの大学図書館の蔵書がデジタル化されるのは予定ではなさそうな勢いです。本校図書館の取り組みとして、遅ればせながら機関リポジトリを計画中です。福島高専で生産される教育研究情報をデジタル化して保存する取り組みです。システムにはMITとHP社によって開発されたDspaceを採用して、福島高専のアーカイブを構築しようという試みです。

ご協力の程よろしく申し上げます。

### What is a Digital Institutional Repository?

"A university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members. It is most essentially an organizational commitment to the stewardship of these digital materials, including long-term preservation where appropriate, as well as organization and access or distribution."

### 原稿募集のお知らせ

ビブリアにあなたの作品を掲載してみませんか？ 本の紹介、感想文、評論・・・エッセイなどお寄せ下さい。字数などは相談させて下さい。

変わっていくもの 変わらないもの・・・いつものビブリアならば、卒業して行く5年生達が後輩へお気に入りの本やお勧めの本などを紹介していくコーナーがあったのですが、読書離れの影響は大きく、紙面が埋まらない状況となり、断念しました。その代わりに、読書に関して熱心に取り組んでくれた5年生の卒業論文を本の少しですが、紹介することができました。また、佐藤さん(4M)の作品「暗闇鏡」を掲載しました。感想やコメントをお寄せ下さい。

写真やカットも募集しますので、作品をお寄せ下さい。  
よろしく申し上げます。

これは何でしょう？

2秒後の形を書いてみて下さい。



----- 編集後記 -----

編集原稿をお寄せ下さった皆様、ありがとうございました。何とか発行となりました。御礼申し上げます。

レポートの締め切りとの競争はもう・・・orz (T.T)

タイピングの問題ではないことを理解したって感じです。(S)

リサイズって大きさじゃないってわかった (A.T)

いろいろあったので、次号に続く です。(U)

次号から学生課図書係からの発行となる予定です。

